

令和5年度

陸前高田市下水道事業会計

# 決算審査意見書

陸前高田市監査委員





陸高監第26号  
令和6年7月26日

陸前高田市長 佐々木 拓 様

陸前高田市監査委員 宗 宮 安 宏

同 木 村 聡

令和5年度陸前高田市下水道事業会計決算審査の意見について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和5年度陸前高田市下水道事業会計決算の審査をしたので、その結果について別添のとおり意見書を提出します。



# 目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法	1
第4	審査の結果	1
1	事業の概要	2
(1)	予算の成立経過について	2
(2)	業務実績について	2
(3)	収益的収入及び支出について	5
(4)	資本的収入及び支出について	6
(5)	予算に定められた限度条項等について	7
2	経営の状況	7
(1)	経営成績について	7
(2)	使用料単価及び汚水処理原価について	8
(3)	他会計からの補助金等について	8
(4)	事業収益及び費用について	9
(5)	資本的収入及び支出について	13
3	財政の状況	16
(1)	資産、負債及び資本について	16
(2)	資金運用について	17
(3)	キャッシュ・フローの状況	18
4	経営分析	19
第5	む す び	22
☆決算審査資料		
付表1	下水道事業損益計算書比較表	23
付表2	下水道事業貸借対照表比較表	24



# 令和5年度陸前高田市下水道事業会計決算審査意見書

## 第1 審査の対象

令和5年度陸前高田市下水道事業会計決算

## 第2 審査の期間

令和6年6月1日から令和6年7月25日まで

## 第3 審査の方法

陸前高田市長から送付された決算報告書、財務諸表（損益計算書、貸借対照表、剰余金計算書及び剰余金処分計算書）及びこれらに関する附属書類が、地方公営企業法及び関係法令の規定に準拠して作成され、企業の経営成績並びに財政状態を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計諸帳簿の照合を行うとともに、必要に応じて関係職員の説明を求めながら審査した。

## 第4 審査の結果

決算報告書、財務諸表等は、地方公営企業法及び関係法令の規定に準拠して作成されており、令和5年度の経営成績並びに年度末における財政状態が適正に表示され、決算計数も適正であると認めた。

また、予算執行は、所期の計画により執行され、運営は、公営企業本来の目的である公共の福祉を増進することに配慮されていると認められる。消費税及び地方消費税の経理方法は、税抜処理方式となっている。

なお、審査意見書の作成に当たり下水道事業会計は、令和5年4月1日から公共下水道事業、農業集落排水事業、漁業集落排水事業の3事業に地方公営企業法の全部を適用し、公営企業会計に移行して初めての決算であり、前年度との比較ができないことから、数値及び増減率は「－」で表している。

## 1 事業の概要

### (1) 予算の成立経過について

予算の成立経過は、次のとおりである。

区 分	収益的収入及び支出		資本的収入及び支出	
	収 入	支 出	収 入	支 出
当 初 予 算 (5. 3. 20)	千円 1, 156, 035	千円 801, 440	千円 135, 410	千円 490, 005
補正予算第1号 (5. 10. 12)	0	1, 912	2, 100	2, 287
補正予算第2号 (5. 11. 30)	0	711	0	0
地方公営企業法第26条 の規定による繰越額	0	0	0	0
予 算 総 額	1, 156, 035	804, 063	137, 510	492, 292
前 年 度 予 算 総 額	—	—	—	—
対前年度比較	増 減	—	—	—
	増 減 率	—	—	—

(注) ( ) 内は議決年月日である。

補正予算第1号 …………… 収益的収入及び支出は、支出で主に処理場費の増である。  
資本的収入及び支出は、収入で企業債の増であり、支出で主に  
管渠費及び処理場費の増である。

補正予算第2号 …………… 収益的収入及び支出は、支出で総係費の増である。

### (2) 業務実績について

ア 予算に定められた業務の予定量とその実績は、次のとおりである。

#### (ア) 公共下水道事業

区 分	予 定 量	実 績	比 較	執行率(%)
処 理 戸 数 (戸)	2, 179	1, 985	△194	91. 1
年 間 総 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	446, 930	436, 702	△10, 228	97. 7
1 日 平 均 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	1, 224	1, 196	△28	97. 7
主要な建設改良事業 (円)	87, 604, 000	2, 087, 000	△85, 517, 000	2. 4
※内繰越額 (円)	0	0	0	—

予定量に対する実績は、処理戸数、年間総処理水量、1日平均処理水量及び主要な建設改良事業の全てで下回っている。

#### (イ) 農業集落排水事業

区 分	予 定 量	実 績	比 較	執行率(%)
処 理 戸 数 (戸)	255	234	△21	91. 8
年 間 総 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	58, 886	53, 761	△5, 125	91. 3
1 日 平 均 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	161	147	△14	91. 3
主要な建設改良事業 (円)	1, 100, 000	1, 265, 000	165, 000	115. 0
※内繰越額 (円)	0	0	0	—

予定量に対する実績は、処理戸数、年間総処理水量及び1日平均処理水量が下回ったものの、主要な建設改良事業の実績が上回っている。

## (ウ) 漁業集落排水事業

区 分	予 定 量	実 績	比 較	執行率(%)
処 理 戸 数 (戸)	268	262	△6	97.8
年 間 総 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	58,716	58,419	△297	99.5
1 日 平 均 処 理 水 量 (m <sup>3</sup> )	161	160	△1	99.4
主 要 な 建 設 改 良 事 業 (円)	2,057,000	1,873,300	187,700	91.1
※内繰越額 (円)	0	0	0	—

予定量に対する実績は、処理戸数、年間総処理水量、1日平均処理水量及び主要な建設改良事業の全てで下回っている。

イ 水洗化人口等と普及率の状況は、次のとおりである。

項 目	区 分	令和5年度	令和4年度	増 減	増減率
行政区域内人口 (人)		17,452	—	—	—
処理区域内人口 (人)	公共下水道事業	4,545	—	—	—
	農業集落排水事業	607	—	—	—
	漁業集落排水事業	945	—	—	—
	※下水道処理区域外	11,355	—	—	—
	合計	17,452	—	—	—
水洗化人口 (人)	公共下水道事業	4,015	—	—	—
	農業集落排水事業	561	—	—	—
	漁業集落排水事業	679	—	—	—
	※下水道処理区域外	6,828	—	—	—
	合計	12,083	—	—	—
処 理 戸 数 (戸)	公共下水道事業	1,985	—	—	—
	農業集落排水事業	234	—	—	—
	漁業集落排水事業	262	—	—	—
	合計	2,481	—	—	—
普 及 率 (%)	公共下水道事業	88.3	—	—	—
	農業集落排水事業	92.4	—	—	—
	漁業集落排水事業	71.9	—	—	—
	合計	65.9	—	—	—
水 洗 化 率 (%)	公共下水道事業	88.3	—	—	—
	農業集落排水事業	92.4	—	—	—
	漁業集落排水事業	71.9	—	—	—
	※個別浄化槽	60.1	—	—	—
	合計	69.2	—	—	—

事業区域内における処理戸数は、2,481戸であり、普及率は65.9%となっている。また、個別浄化槽を含めた水洗化人口は、12,083人で、水洗化率は69.2%となっている。

ウ 処理水量、有収水量、有収率等の状況は、次のとおりである。

項目		区分	令和5年度	令和4年度	増減	増減率
総 処 理 水 量	年間総処理水量 ( $\text{m}^3$ ) A	公共下水道事業	436,702	—	—	—
		農業集落排水事業	53,761	—	—	—
		漁業集落排水事業	58,419	—	—	—
		合計	548,882	—	—	—
	1 か月平均 処 理 水 量 ( $\text{m}^3$ )	公共下水道事業	36,392	—	—	—
		農業集落排水事業	4,480	—	—	—
		漁業集落排水事業	4,868	—	—	—
		合計	45,740	—	—	—
	1 日 平 均 処 理 水 量 ( $\text{m}^3$ )	公共下水道事業	1,196	—	—	—
		農業集落排水事業	147	—	—	—
		漁業集落排水事業	160	—	—	—
		合計	1,504	—	—	—
有 収 水 量	年間有収水量 ( $\text{m}^3$ ) B	公共下水道事業	419,604	—	—	—
		農業集落排水事業	48,897	—	—	—
		漁業集落排水事業	56,443	—	—	—
		合計	524,944	—	—	—
	1 か月平均 有 収 水 量 ( $\text{m}^3$ )	公共下水道事業	34,967	—	—	—
		農業集落排水事業	4,075	—	—	—
		漁業集落排水事業	4,303	—	—	—
		合計	43,745	—	—	—
	1 日 平 均 有 収 水 量 ( $\text{m}^3$ )	公共下水道事業	1,149	—	—	—
		農業集落排水事業	134	—	—	—
		漁業集落排水事業	155	—	—	—
		合計	1,438	—	—	—
有 収 率 (%) B/A	公共下水道事業	96.1	—	—	—	
	農業集落排水事業	91.0	—	—	—	
	漁業集落排水事業	96.6	—	—	—	
	合計	95.6	—	—	—	

年間総処理水量は、公共下水道事業 436,702  $\text{m}^3$ 、農業集落排水事業 53,761  $\text{m}^3$ 、漁業集落排水事業 58,419  $\text{m}^3$  の計 548,882  $\text{m}^3$  となっている。また、年間有収水量は、公共下水道事業 419,604  $\text{m}^3$ 、農業集落排水事業 48,897  $\text{m}^3$ 、漁業集落排水事業 56,443  $\text{m}^3$  の計 524,944  $\text{m}^3$  となっている。

処理した汚水のうち、使用料の対象となる割合を示す有収率は、公共下水道事業 96.1%、農業集落排水事業 91.0%、漁業集落排水事業 96.6% で、下水道事業会計全体では 95.6% となっている。

### (3) 収益的収入及び支出について

収益的収入及び支出の決算状況は、次のとおりである。

区 分		令和5年度		令和4年度		対前年度比較		
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減	増 減 率	
入	1 公共下水道事業収益	925,128,872	80.1	—	—	—	—	
	営 業 収 益	177,151,480	15.3	—	—	—	—	
	営 業 外 収 益	747,977,392	64.8	—	—	—	—	
	2 農業集落排水事業収益	119,241,960	10.4	—	—	—	—	
	営 業 収 益	8,707,660	0.8	—	—	—	—	
	営 業 収 益	110,534,300	9.6	—	—	—	—	
	3 漁業集落排水事業収益	109,367,275	9.5	—	—	—	—	
	営 業 収 益	9,919,580	0.9	—	—	—	—	
	営 業 収 益	99,447,695	8.6	—	—	—	—	
	合 計	1,153,738,107	100.0	—	—	—	—	
支 出	1 公共下水道事業費用	612,593,643	83.0	—	—	—	—	
	営 業 費 用	558,110,674	75.6	—	—	—	—	
	営 業 外 費 用	53,635,882	7.3	—	—	—	—	
	特 別 損 失	847,087	0.1	—	—	—	—	
	予 備 費	0	0.0	—	—	—	—	
	2 農業集落排水事業費用	65,018,865	8.8	—	—	—	—	
	営 業 費 用	61,043,902	8.3	—	—	—	—	
	営 業 外 費 用	3,219,354	0.4	—	—	—	—	
	特 別 損 失	755,609	0.1	—	—	—	—	
	予 備 費	0	0.0	—	—	—	—	
	3 漁業集落排水事業費用	61,124,669	8.2	—	—	—	—	
	営 業 費 用	53,788,601	7.2	—	—	—	—	
	営 業 外 費 用	6,787,973	0.9	—	—	—	—	
	特 別 損 失	548,095	0.1	—	—	—	—	
	予 備 費	0	0.0	—	—	—	—	
		合 計	738,737,177	100.0	—	—	—	—
		収 支 差 引 額	415,000,930		—			

収入は、1,153,738,107円となっており、支出は738,737,177円となっている。

この結果、収支差引額は、415,000,930円の純利益となった。

(4) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の決算状況は、次のとおりである

区 分		年 度		令和 5 年度		令和 4 年度		対前年度比較	
		決算額	構成比	決算額	構成比	増減	増減率		
収 入	1 公共下水道事業資本的収入	99,333,740	97.7	—	—	—	—	—	—
	企業債	700,000	0.7	—	—	—	—	—	—
	国庫補助金	35,000,000	34.4	—	—	—	—	—	—
	受益者負担金	63,633,740	62.6	—	—	—	—	—	—
	2 農業集落排水事業資本的収入	1,100,000	1.1	—	—	—	—	—	—
	企業債	1,100,000	1.1	—	—	—	—	—	—
	3 漁業集落排水事業資本的収入	1,207,400	1.2	—	—	—	—	—	—
	企業債	1,100,000	1.1	—	—	—	—	—	—
	受益者負担金	107,400	0.1	—	—	—	—	—	—
	合 計	101,641,140	100.0	—	—	—	—	—	—
支 出	1 公共下水道事業資本的支出	335,309,007	82.6	—	—	—	—	—	—
	建設改良費	1,898,000	0.4	—	—	—	—	—	—
	企業債償還金	333,411,007	82.2	—	—	—	—	—	—
	2 農業集落排水事業資本的支出	41,396,023	10.2	—	—	—	—	—	—
	建設改良費	1,150,000	0.3	—	—	—	—	—	—
	企業債償還金	40,246,023	9.9	—	—	—	—	—	—
	3 漁業集落排水事業資本的支出	29,029,882	7.2	—	—	—	—	—	—
	建設改良費	1,703,000	0.4	—	—	—	—	—	—
	企業債償還金	27,326,882	6.8	—	—	—	—	—	—
	合 計	405,734,912	100.0	—	—	—	—	—	—
収 支 差 引 額		△304,093,772		—					

収入は、101,641,140 円、支出は 405,734,912 円で、この結果、資本的収入額が資本的支出額に対して 304,093,772 円の不足であり、内部留保資金等で全部補てんされている。

## (5) 予算に定められた限度条項等について

予算に定められた限度条項及び流用禁止項目は次のとおりであり、いずれも議決予算内で執行されている。

### ア 限度条項等

(ア) 一時借入金	限度額	500,000,000円
	借入額	0円
(イ) 他会計からの補助金		
一般会計補助金	予算額	513,447,000円
	決算額	513,447,000円

### イ 流用禁止項目

(ア) 職員給与費	予算額	26,389,000円
	決算額	23,791,605円(税込額)

## 2 経営の状況

### (1) 経営成績について

収益的収入及び支出における損益の状況は、次のとおりである。

区分	年度				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業収益(A)	円 —	円 —	円 —	円 —	円 1,153,738,107
事業費用(B)	—	—	—	—	738,737,177
純利益 (A) - (B)	—	—	—	—	415,000,930
総収支比率 ※費用に対する 収益の割合 (A) ———×100 (B)	% —	% —	% —	% —	% 156.2

令和5年度は、事業収益は1,153,738,107円で、事業費用は738,737,177円となっており、415,000,930円の純利益を生じた。また、経営利益率を示す総収支比率は156.2%となっている。

## (2) 使用料単価及び汚水処理原価について

有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの使用料単価及び汚水処理原価は、次のとおりである。

区 分		年 度	令 和 元年度	令 和 2年度	令 和 3年度	令 和 4年度	令和5年度
使用料単価 (A)	公共下水道事業	—	—	—	—	—	191 円 06 銭
	農業集落排水事業	—	—	—	—	—	178 円 08 銭
	漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	175 円 75 銭
	小計	—	—	—	—	—	188 円 20 銭
汚水処理原価 (B)	公共下水道事業	—	—	—	—	—	234 円 80 銭
	農業集落排水事業	—	—	—	—	—	985 円 42 銭
	漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	786 円 80 銭
	小計	—	—	—	—	—	364 円 07 銭
(A)－(B) (△は原価割れ)	公共下水道事業	—	—	—	—	—	△43 円 74 銭
	農業集落排水事業	—	—	—	—	—	△807 円 34 銭
	漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	△611 円 05 銭
	小計	—	—	—	—	—	△175 円 87 銭
原価に対する 料金の割合 (A)／(B)×100	公共下水道事業	%	%	%	%	%	81.4
	農業集落排水事業	—	—	—	—	—	18.1
	漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	22.3
	小計	—	—	—	—	—	51.7

使用料単価 188 円 20 銭に対し、汚水処理原価は 364 円 7 銭で、差引き 175 円 87 銭と原価割れとなっている。

- ・ 使用料単価：下水道使用料 ÷ 年間総有収水量
- ・ 汚水処理原価：汚水処理費（経常費用－受託工事費－長期前受金戻入） ÷ 年間総有収水量

## (3) 他会計からの補助金等について

地方公営企業法による一般会計負担金及び補助金は、次のとおりである。

区 分		年 度	令 和 元年度	令 和 2年度	令 和 3年度	令 和 4年度	令和5年度		
負担金	公共下水道事業 (雨水処理負担金)	円	—	円	—	円	—	円	96,517,000
補助金	基準内	公共下水道事業	—	—	—	—	—	25,092,000	
		農業集落排水事業	—	—	—	—	—	16,078,000	
		漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	12,989,000	
		小計	—	—	—	—	—	54,159,000	
	基準外	公共下水道事業	—	—	—	—	—	326,140,000	
		農業集落排水事業	—	—	—	—	—	66,935,000	
		漁業集落排水事業	—	—	—	—	—	66,213,000	
		小計	—	—	—	—	—	459,288,000	
計	—	—	—	—	—	—	513,447,000		
合 計	—	—	—	—	—	—	609,964,000		

当年度負担金 96,517,000 円は、公共下水道事業の雨水処理負担金である。

補助金 513,447,000 円は、運営費に充てるための経営資金補助金である。

(4) 事業収益及び費用について（税抜）

ア 事業収益の項目別内訳は、次のとおりである。

項 目		年 度	令和5年度		令和4年度		対前年度比較		
			決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減	増 減 率	
公共下水道事業収益	営業収益	1 下水道使用料	80,174,480	6.9	—	—	—	—	
		2 雨水処理負担金	96,517,000	8.4	—	—	—	—	
		3 その他営業収益	460,000	0.0	—	—	—	—	
		計	177,151,480	15.3	—	—	—	—	
	営業外収益	1 受取利息及び配当金	4,316	0.0	—	—	—	—	
		2 他会計補助金	351,232,000	30.4	—	—	—	—	
		3 長期前受金戻入	396,740,749	34.4	—	—	—	—	
		4 雑 収 益	327	0.0	—	—	—	—	
	計	747,977,392	64.8	—	—	—	—		
	合 計		925,128,872	80.1	—	—	—	—	
農業集落排水事業収益	収益業	1 下水道使用料	8,707,660	0.8	—	—	—	—	
		計	8,707,660	0.8	—	—	—	—	
	営業外収益	1 受取利息及び配当金	0	0.0	—	—	—	—	
		2 他会計補助金	83,013,000	7.2	—	—	—	—	
		3 長期前受金戻入	27,521,061	2.4	—	—	—	—	
		4 雑 収 益	239	0.0	—	—	—	—	
	計	110,534,300	9.6	—	—	—	—		
	合 計		119,241,960	10.4	—	—	—	—	
	漁業集落排水事業収益	収益業	1 下水道使用料	9,919,580	0.9	—	—	—	—
			計	9,919,580	0.9	—	—	—	—
営業外収益		1 受取利息及び配当金	0	0.0	—	—	—	—	
		2 他会計補助金	79,202,000	6.9	—	—	—	—	
		3 長期前受金戻入	20,239,452	1.7	—	—	—	—	
		4 雑 収 益	6,243	0.0	—	—	—	—	
計		99,447,695	8.6	—	—	—	—		
合 計		109,367,275	9.5	—	—	—	—		
総 計		1,153,738,107	100.0	—	—	—	—		

事業収益は、公共下水道事業収益 925,128,872 円、農業集落排水事業収益 119,241,960 円、漁業集落排水事業収益 109,367,275 円で、総収益は 1,153,738,107 円となっている。

イ 事業別下水道使用料の状況は、次のとおりである。

項目	年度		令和5年度		令和4年度		対前年度比較	
	決算額	構成比	決算額	構成比	増減	増減率		
公共下水道事業	80,169,080	81.2	—	—	—	—		
農業集落排水事業	8,707,660	8.8	—	—	—	—		
漁業集落排水事業	9,919,580	10.0	—	—	—	—		
計	98,796,320	100.0	—	—	—	—		

ウ 事業費用の項目別内訳は、次のとおりである。

項目	年度		令和5年度		令和4年度		対前年度比較	
	決算額	構成比	決算額	構成比	増減	増減率		
公共下水道事業費用	営業費用	1 管渠費	7,094,394	1.0	—	—	—	—
		2 ポンプ場費	4,972,445	0.7	—	—	—	—
		3 処理場費	51,726,817	7.0	—	—	—	—
		4 総係費	21,421,888	2.9	—	—	—	—
		5 減価償却費	472,895,130	64.0	—	—	—	—
		計	558,110,674	75.6	—	—	—	—
	営業外費用	1 支払利息及び企業債取扱諸費	47,202,258	6.4	—	—	—	—
		2 消費税及び地方消費税	0	0.0	—	—	—	—
		3 雑支出	6,433,624	0.9	—	—	—	—
		計	53,635,882	7.3	—	—	—	—
	特別損失	1 過年度損益修正損	3,729	0.0	—	—	—	—
		2 その他特別損失	843,358	0.1	—	—	—	—
		計	847,087	0.1	—	—	—	—
	予備費	1 予備費	0	0.0	—	—	—	—
		計	0	0.0	—	—	—	—
	合計		612,593,643	83.0	—	—	—	—

項 目		年 度	令和5年度		令和4年度		対前年度比較	
			決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減	増 減 率
農業集落排水事業費用	営業費用	1 管 渠 費	円 1,235,535	% 0.2	円 —	% —	円 —	% —
		2 処 理 場 費	9,001,394	1.2	—	—	—	—
		3 総 係 費	9,338,602	1.3	—	—	—	—
		4 減 価 償 却 費	41,468,371	5.6	—	—	—	—
		計	61,043,902	8.3	—	—	—	—
	営業外費用	1 支払利息及び企業債取扱諸費	2,131,454	0.3	—	—	—	—
		2 消費税及び地方消費税	0	0.0	—	—	—	—
		3 雑 支 出	1,087,900	0.1	—	—	—	—
		計	3,219,354	0.4	—	—	—	—
	特別損失	1 過年度損益修正損	0	0.0	—	—	—	—
		2 その他特別損失	755,609	0.1	—	—	—	—
		計	755,609	0.1	—	—	—	—
	予備費	1 予 備 費	0	0.0	—	—	—	—
		計	0	0.0	—	—	—	—
	合 計		65,018,865	8.8	—	—	—	—
漁業集落排水事業費用	営業費用	1 管 渠 費	1,928,926	0.3	—	—	—	—
		2 処 理 場 費	12,978,304	1.7	—	—	—	—
		3 総 係 費	8,257,033	1.1	—	—	—	—
		4 減 価 償 却 費	30,624,338	4.1	—	—	—	—
		計	53,788,601	7.2	—	—	—	—
	営業外費用	1 支払利息及び企業債取扱諸費	5,782,296	0.8	—	—	—	—
		2 消費税及び地方消費税	0	0.0	—	—	—	—
		3 雑 支 出	1,005,677	0.1	—	—	—	—
		計	6,787,973	0.9	—	—	—	—
	特別損失	3 過年度損益修正損	0	0.0	—	—	—	—
		4 その他特別損失	548,095	0.1	—	—	—	—
		計	548,095	0.1	—	—	—	—
	予備費	1 予 備 費	0	0.0	—	—	—	—
		計	0	0.0	—	—	—	—
	合 計		61,124,669	8.2	—	—	—	—
総 計		738,737,177	100.0	—	—	—	—	

事業費用は、公共水道事業費用 612,593,643 円、農業集落排水事業費用 65,018,865 円、漁業集落排水事業費用 61,124,669 円で、総費用は 738,737,177 円となっている。

エ 事業収益の収納状況（税込額）は、次のとおりである。

（現年度分）

項目		区分	調定額	収入済額	未収入額	収納率	前年度 収納率
公共 下水道 事業 収益	営業 収益	1 下水道使用料	88,191,388	79,523,575	8,667,813	90.2	—
		2 雨水処理負担金	96,517,000	96,517,000	0	100.0	—
		3 その他営業収益	460,000	460,000	0	100.0	—
		計	185,168,388	176,500,575	8,667,813	95.3	—
	営業 外 収益	1 受取利息及び配当金	4,316	4,316	0	100.0	—
		2 他会計補助金	351,232,000	351,232,000	0	100.0	—
		3 長期前受金戻入	396,740,749	396,740,749	0	100.0	—
		4 雑収益	327	327	0	100.0	—
	計	747,977,392	747,977,392	0	100.0	—	
	合計			933,145,780	924,477,967	8,667,813	99.1
農業 集落 排水 事業 収益	営業 収益	1 下水道使用料	9,578,426	8,718,490	859,936	91.0	—
		計	9,578,426	8,718,490	859,936	91.0	—
	営業 外 収益	1 受取利息及び配当金	0	0	0	—	—
		2 他会計補助金	83,013,000	83,013,000	0	100.0	—
		3 長期前受金戻入	27,521,061	27,521,061	0	100.0	—
		4 雑収益	239	239	0	100.0	—
	計	110,534,300	110,534,300	0	100.0	—	
合計			120,112,726	119,252,790	859,936	99.3	—
漁業 集落 排水 事業 収益	営業 収益	1 下水道使用料	10,911,538	9,960,390	951,148	91.3	—
		計	10,911,538	9,960,390	951,148	91.3	—
	営業 外 収益	1 受取利息及び配当金	0	0	0	—	—
		2 他会計補助金	79,202,000	79,202,000	0	100.0	—
		3 長期前受金戻入	20,239,452	20,239,452	0	100.0	—
		4 雑収益	6,243	6,243	0	100.0	—
	計	99,447,695	99,447,695	0	100.0	—	
合計			110,359,233	109,408,085	951,148	99.1	—
総計			1,163,617,739	1,153,138,842	10,478,897	99.1	—

事業収益の現年度分の収納状況は、調定額 1,163,617,739 円に対し、収入済額が 1,153,138,842 円で収納率は 99.1%となっている。

未収入額は、全て下水道使用料で、公共下水道事業 8,667,813 円、農業集落排水事業 859,936 円、漁業集落排水事業 951,148 円の総計 10,478,897 円となっている。

なお、未収入額 10,478,897 円のうち、令和 6 年 5 月末日までに 9,597,342 円が収入済となっている。

(過年度分)

項目	区分	前年度末 未収入額	未収入 調整額	収入済額	不納 欠損額	当年度末 未収入額	収納率
下水道使用料		円 11,024,669	円 0	円 10,400,957	円 87,278	円 536,434	% 94.3
公共下水道事業		9,233,095	0	8,610,098	87,278	535,719	93.3
農業集落排水事業		853,769	0	853,054	0	715	99.9
漁業集落排水事業		937,805	0	937,805	0	0	100.0

過年度分の収納状況は、前年度末未収入額 11,024,669 円に対し収入済額は 10,400,957 円で、これを合わせた収納率は 94.3%となっている。

なお、未収入額 536,434 円のうち、令和 6 年 5 月末日までの収入済額は 25,410 円となっている。

#### (5) 資本的収入及び支出について（税抜）

ア 資本的収入の項目別内訳は、次のとおりである。

項目		年 度		令和 5 年度		令和 4 年度		対前年度比較	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減	増 減 率		
公共 下水道事業 資本的 収入	企業債	1 企業債	円 700,000	% 0.7	円 —	% —	円 —	% —	
		計	700,000	0.7	—	—	—	—	
	出金 国庫支	1 国庫補助金	35,000,000	34.4	—	—	—	—	
		計	35,000,000	34.4	—	—	—	—	
	分 担金 受益者負 担金及び	1 受益者負担金	63,633,740	62.6	—	—	—	—	
		計	63,633,740	62.6	—	—	—	—	
合 計		99,333,740	97.7	—	—	—	—		
事業 資本的 収入	企業債	1 企業債	1,100,000	1.1	—	—	—	—	
		計	1,100,000	1.1	—	—	—	—	
	合 計		1,100,000	1.1	—	—	—	—	
事業 資本的 収入	企業債	1 企業債	1,100,000	1.1	—	—	—	—	
		計	1,100,000	1.1	—	—	—	—	
	分 担金 受益者負 担金及び	1 受益者負担金	107,400	0.1	—	—	—	—	
		計	107,400	0.1	—	—	—	—	
合 計		1,207,400	1.2	—	—	—	—		
総 計		101,641,140	100.0	—	—	—	—		

収入は、公共下水道事業 99,333,740 円、農業集落排水事業 1,100,000 円、漁業集落排水事業 1,207,400 円で、総計は 101,641,140 円となっている。

イ 資本的支出の項目別内訳は、次のとおりである。

項 目		年 度		令和 5 年度		令和 4 年度		対前年度比較	
		決 算 額	構 成 比	決 算 額	構 成 比	増 減	増 減 率		
公共下水道事業資本的支出	建設改良費	1 管渠整備費	1,898,000	0.4	—	—	—	—	
		2 処理場設備費	0	0.0	—	—	—	—	
		計	1,898,000	0.4	—	—	—	—	
	償還金	1 建設企業債	333,411,007	82.2	—	—	—	—	
		計	333,411,007	82.2	—	—	—	—	
	合 計	335,309,007	82.6	—	—	—	—		
農業集落排水事業資本的支出	建設改良費	1 管渠整備費	0	0.0	—	—	—	—	
		2 処理場設備費	1,150,000	0.3	—	—	—	—	
		計	1,150,000	0.3	—	—	—	—	
	償還金	1 建設企業債	40,246,023	9.9	—	—	—	—	
		計	40,246,023	9.9	—	—	—	—	
	合 計	41,396,023	10.2	—	—	—	—		
漁業集落排水事業資本的支出	建設改良費	1 管渠整備費	1,361,000	0.3	—	—	—	—	
		2 処理場設備費	342,000	0.1	—	—	—	—	
		計	1,703,000	0.4	—	—	—	—	
	償還金	1 建設企業債	27,326,882	6.8	—	—	—	—	
		計	27,326,882	6.8	—	—	—	—	
	合 計	29,029,882	7.2	—	—	—	—		
総 計	405,734,912	100.0	—	—	—	—			

支出は、公共下水道事業 335,309,007 円、農業集落排水事業 41,396,023 円、漁業集落排水事業 29,029,882 円で、総計は 405,734,912 円となっている。

ウ 企業債の状況は、次のとおりである。

項目	借入先	前年度末残高	令和5年度		当年度末残高
			借入高	償還高	
公共下水道事業	財務省財政融資資金	円 1,064,906,635	円 700,000	円 96,045,322	円 969,561,313
	地方公共団体金融機構資金	458,060,774	0	96,864,049	361,196,725
	民間資金	1,127,302,924	0	140,501,636	986,801,288
	計	2,650,270,333	700,000	333,411,007	2,317,559,326
排水事業集落	財務省財政融資資金	13,091,924	1,100,000	2,510,144	11,681,780
	地方公共団体金融機構資金	133,012,541	0	37,325,879	95,686,662
	民間資金	2,235,000	0	410,000	1,825,000
	計	148,339,465	1,100,000	40,246,023	109,193,442
排水事業集落	財務省財政融資資金	169,211,554	1,100,000	11,553,877	158,757,677
	地方公共団体金融機構資金	155,492,592	0	15,363,005	140,129,587
	民間資金	2,235,000	0	410,000	1,825,000
	計	326,939,146	1,100,000	27,326,882	300,712,264
事業総計	財務省財政融資資金	1,247,210,113	2,900,000	110,109,343	1,140,000,770
	地方公共団体金融機構資金	746,565,907	0	149,552,933	597,012,974
	民間資金	1,131,772,924	0	141,321,636	990,451,288
	計	3,125,548,944	2,900,000	400,983,912	2,727,465,032

企業債は、前年度末残高 3,125,548,944 円に対し、当年度借入高が 2,900,000 円、当年度償還高が 400,983,912 円で、当年度末残高が 2,727,465,032 円となっている。

### 3 財政の状況

#### (1) 資産、負債及び資本について

資産、負債及び資本の状況は、次のとおりである。

項 目		年 度 令和5年度末	令和5年度当初	対年度当初比較	
				増 減	増減率
資 産	固 定 資 産	16,983,608,998 <sup>円</sup>	17,523,845,837 <sup>円</sup>	△540,236,839 <sup>円</sup>	△3.1 <sup>%</sup>
	有形固定資産	16,864,266,633	17,400,902,179	△536,635,546	△3.1
	無形固定資産	119,342,365	122,943,658	△3,601,293	△2.9
	流 動 資 産	385,642,076	84,189,481	301,452,595	358.1
	現 金 預 金	334,623,696	72,973,112	261,650,584	358.6
	未 収 金	51,028,380	11,216,369	39,812,011	354.9
	貸倒引当金	△10,000	0	△10,000	皆増
資 産 合 計		17,369,251,074	17,608,035,318	△238,784,244	△1.4
負 債	固 定 負 債	2,350,366,166	2,724,565,032	△374,198,866	△13.7
	企 業 債	2,350,366,166	2,724,565,032	△374,198,866	△13.7
	流 動 負 債	502,798,118	435,687,395	67,110,723	15.4
	企 業 債	377,098,866	400,983,912	△23,885,046	△6.0
	未 払 金	118,187,252	34,703,483	83,483,769	240.6
	引 当 金	2,122,000	0	2,122,000	皆増
	その他流動負債	5,390,000	0	5,390,000	皆増
	繰 延 収 益	13,590,257,327	14,000,340,739	△410,083,412	△2.9
	長 期 前 受 金	14,034,758,589	14,000,340,739	34,417,850	0.2
	収益化累計額	△444,501,262	0	△444,501,262	皆増
負 債 合 計		16,443,421,611	17,160,593,166	△717,171,555	△4.2
資 本	資 本 金	345,776,673	345,776,673	0	0.0
	剰 余 金	580,052,790	101,665,479	478,387,311	470.6
	資 本 剰 余 金	165,051,860	101,665,479	63,386,381	62.3
	利 益 剰 余 金	415,000,930	0	415,000,930	皆増
資 本 合 計		925,829,463	447,442,152	478,387,311	106.9
負 債 ・ 資 本 合 計		17,369,251,074	17,608,035,318	△238,784,244	△1.4

※増減率は、±10,000%を超えた場合は、皆増・皆減で表示しています。

当年度末における資産合計と負債及び資本合計は、17,369,251,074円で、年度当初に比べ238,784,244円（1.4%）の減となっている。

ア 固定資産は、16,983,608,998円で年度当初に比べ、540,236,839円（3.1%）の減となっている。これは、有形固定資産の減価償却等によるものである。

イ 流動資産は、385,642,076円で年度当初に比べ301,452,595円（358.1%）の増となっている。これは、現金預金が261,650,584円、未収金が39,812,011円の増となったことなどによるものである。なお、未収金のうち下水道使用料は11,105,331円となっている。

ウ 固定負債は、2,350,366,166円で年度当初に比べ374,198,866円（13.7%）の減となっている。これは、企業債が減となったことなどによるものである。

エ 流動負債は、502,798,118円で年度当初に比べ67,110,723円（15.4%）の増となっている。これは、工事費等の未払金が83,483,769円の増となったことなどによるものである。

オ 繰延収益は、13,590,257,327円で年度当初に比べ410,083,412円（2.9%）の減となっている。これは、収益化累計額が444,501,262円の減となったことなどによるものである。

カ 資本金は、345,776,673円で年度当初と同額である。

キ 剰余金は、580,052,790円で、資本剰余金が年度当初に比べ63,386,381円（62.3%）の増となったことに加え、利益剰余金415,000,930円を計上したことによるものである。

## (2) 資金運用について

企業の財政活動を示す一定期間において、企業に流入した資金（資金の源泉）と流出した資金の使途（資金の運用）は次のとおりである。

資 金 運 用 表

(単位：円)

資金の使途（運用）		資金の源泉（調達）	
項 目	金 額	項 目	金 額
有形固定資産の増加	3,551,000	流動負債の増加	67,110,723
無形固定資産の増加	1,200,000	資本剰余金の増加	63,386,381
流動資産（現金預金）の増加	301,452,595	当年度純利益の増加	415,000,930
繰延収益の減少	410,083,412	有形固定資産の減価償却費の増加	540,186,546
固定負債（企業債）の減少	374,198,866	無形固定資産の減価償却費の増加	4,801,293
合 計	1,090,485,873	合 計	1,090,485,873

### (3) キャッシュ・フローの状況

業務活動によるキャッシュ・フローは、通常の営業活動の実施に係る資金の状態を表し、投資活動によるキャッシュ・フローは、将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、財務活動によるキャッシュ・フローは、業務活動及び投資活動を行うための財務活動に係る資金の状態を表している。

キャッシュ・フロー計算書の状況は、次のとおりである。

区 分	令和5年度	令和4年度	対前年度比較
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	円	円	円
当年度純利益	415,000,930	—	—
減価償却費	544,987,839	—	—
引当金の増減額（△は減少）	2,132,000	—	—
長期前受金戻入額	△444,501,262	—	—
受取利息及び受取配当金	△4,316	—	—
支払利息	55,116,008	—	—
未収金の増減額（△は増加）	△3,972,211	—	—
未払金の増減額（△は減少）	5,357,413	—	—
その他流動負債の増減額（△は減少）	5,390,000	—	—
小計	579,506,401	—	—
利息及び配当金の受取額	4,316	—	—
利息の支払額	△45,830,868	—	—
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>533,679,849</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△3,551,000	—	—
無形固定資産の取得による支出	△1,200,000	—	—
国庫補助金等による収入	62,901,340	—	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>58,150,340</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	2,900,000	—	—
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△333,079,605	—	—
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△330,179,605</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
資金増加額（△は減少額）	261,650,584	—	—
資金期首残高	72,973,112	—	—
資金期末残高	334,623,696	—	—

#### 4 経営分析

当年度における経営状況及び財政状況については前述したところであるが、経営分析比率による状況は、次のとおりである。

項目		算式	令和5年度	令和4年度	説明
構成比率 (%)	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資産合計}} \times 100$	97.78	—	資産構成の適正度を示す。 低いほど良い。
	固定負債 構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	13.53	—	長期負債への依存度を示す。 低いほど良い。
	自己資本 構成比率 (1)	$\frac{\text{資本金+剰余金+繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	83.57	—	自己資本調達度を示す。 50%以上が望ましい。
財務 比率 (%)	固定資産対 長期資本比率 (2)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債+繰延収益}} \times 100$	100.69	—	固定資産の財源構成度を示す。 100%以下が望ましい。
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+繰延収益}} \times 100$	117.00	—	財務的安全性を示す。 100%以下が望ましい。
	流動比率 (3)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	76.70	—	支払能力を示す。 200%以上が望ましい。
	酸性試験比率 (当座比率) (4)	$\frac{\text{現金預金+(未収金-貸倒引当金)}}{\text{流動負債}} \times 100$	76.70	—	当座の支払能力を示す。 100%以上が望ましい。
回 転 率 (回)	自己資本 回転率	$\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{(\text{期首自己資本+期末自己資本}) \div 2}$	0.29	—	自己資本の活用状況を示す。 高いほど良い。
	固定資産 回転率	$\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{(\text{期首固定資産+期末固定資産}) \div 2}$	0.01	—	固定資産の利用度を示す。 高いほど良い。
	流動資産 回転率	$\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{(\text{期首流動資産+期末流動資産}) \div 2}$	0.83	—	流動資産の稼働力を示す。 高いほど良い。
	未収金 回転率	$\frac{\text{営業収益-受託工事収益}}{(\text{期首未収金+期末未収金}) \div 2}$	6.29	—	未収金の回収状況を示す。 高いほど良い。

項 目		算 式	令 和 5 年度	令 和 4 年度	説 明
損 益 関 係 比 率 (%)	総 収 支 比 率 (5)	$\frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100$	156.18	—	経営状態を示す。 100%以上が黒字。
	経 常 収 支 比 率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$	156.63	—	経常利益率を示す。 100%以上が望ましい。
	営 業 収 支 比 率	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$	29.09	—	営業活動の採算性を示す。 100%以上が望ましい。
	職 員 給 与 費 対 使 用 料 比 率 (6)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{使用料収入}} \times 100$	24.06	—	営業収益に占める人 件費の割合を示す。 低いほど良い。
	企 業 債 償 還 元 金 対 減 価 償 却 費 比 率	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	399.04	—	償還財源の支払能力 を示す。 低いほど良い。
	企 業 債 償 還 元 金 対 使 用 料 比 率	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{使用料収入}} \times 100$	405.87	—	企業債償還元金の経 営への圧迫度を示す。 低いほど良い。
	企 業 債 利 息 対 使 用 料 比 率	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{使用料収入}} \times 100$	55.79	—	企業債利息の経営へ の圧迫度を示す。 低いほど良い。
	企 業 債 元 利 償 還 金 対 使 用 料 比 率 (7)	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還元金}}{\text{使用料収入}} \times 100$	461.66	—	償還金負担の経営へ の圧迫度を示す。 低いほど良い。

- (1) 自己資本金は安定財源とも言われ、自己資本構成比率が高率なほど事業の財政内容が安定していることを示している。当年度は 83.57%となっている。
- (2) 固定資産対長期資本比率は、資金が長期的に拘束される固定資産が、どの程度返済期限のない自己資本や長期に活用可能な固定負債などの長期資本及び長期借入金によって調達されているか、事業の固定的・長期的安全性を示している。この比率は常に 100%以下で、かつ低いことが望ましい。当年度は 100.69%となっている。
- (3) 流動比率は、1年以内に現金化できる資産と返済すべき負債を比較し、支払能力を判定するもので、200%以上が望ましいとされている。当年度は 76.70%となっている。
- (4) 酸性試験比率（当座比率）は、流動資産のうち、現金預金及び未収金の当座資産と貸倒引当金の流動負債の比較により、流動比率に現れた支払能力の信用度を更に確かめる比率で 100%以上が望ましいとされている。この比率の差は当座資産の差を示すとともに、貯蔵品の占める割合の差を示している。当年度は 76.70%となっている。

- (5) 総収支比率は、総費用に対する総収益の割合で、総体的な経営状態を示している。100%以上が黒字となるが、当年度は156.18%で黒字となっている。
- (6) 職員給与費対使用料比率は、下水道使用料に対する職員給与費の割合を示し、この比率が低いほど望ましいとされ、標準は30%程度とされている。当年度は24.06%となっている。
- (7) 企業債元利償還金対使用料比率は、下水道使用料に対する企業債元利償還金の割合で、低率なほど良く、償還金負担の経営への圧迫度を示している。当年度は461.66%となっている。

## 第5 ちすび

令和5年度下水道事業会計決算審査の概要は前述のとおりであるが、下水道事業会計は、令和5年4月1日に公共下水道事業、農業集落排水事業、漁業集落排水事業の3事業全てに地方公営企業法を適用、公営企業会計となり、初めての決算となった。

今年度は、新たな公共ますの設置、各種ポンプの更新、施設の機械設備等の修繕を実施するなど「住民のよりよい生活環境の改善に向けた取組」が図られていると認めるところである。

業務の実績等をみると、事業区域内における処理戸数は、2,481戸であり、普及率は81.6%となっている。水洗化人口は、個別浄化槽を含め12,583人、水洗化率は69.2%となっている。汚水処理の実績は、年間総給水量は、548,882m<sup>3</sup>、有収水量は524,944m<sup>3</sup>であり、有収率は、95.6%となっている。使用料単価は188円20銭であり、汚水処理原価が364円7銭であることから、原価に対する使用料の割合は51.7%と大幅な原価割れが生じている。抜本的な収支の見直しを図り、安定的な汚水処理に鋭意取り組まれない。

次に、事業の経営状況をみると、収益的収支（税抜）においては、総収益は公共下水道事業 925,129 千円、農業集落排水事業 119,242 千円、漁業集落排水事業 109,367 千円の総計 1,153,738 千円であり、総費用は公共下水道事業 612,593 千円、農業集落排水事業 65,019 千円、漁業集落排水事業 61,125 千円で総計 738,737 千円となった。この結果、総収益から総費用を差し引いた純利益は 415,001 千円となり、経営利益率を示す指標である総収益と総費用を比較した総収支比率は、156.2%となっている。

資本的収支（税抜）においては、収入は公共下水道事業 99,334 千円、農業集落排水事業 1,100 千円、漁業集落排水事業 1,207 千円の総計 101,641 千円、支出は公共水道事業 335,309 千円、農業集落排水事業 41,396 千円、漁業集落排水事業 29,030 千円で総計は 405,735 千円となり、収入から支出を差し引いた 304,094 千円の資金不足が生じたが、不足額については内部留保資金等で全部補てんされている。

下水道使用料に係る未収金については、現年度分の収納率は 90.4%、未収金額は 10,479 千円であり、過年度分の収納率は 94.3%、未収金額は 624 千円となっている。未収金額のうち現年度分 9,597 千円、過年度分 25 千円の合計 9,623 千円が 5 月末日までにそれぞれ収入済となっている。なお、下水道使用料については、収入確保と負担の公平性の観点から未納者の状況に応じた納付指導と適切な債権管理を行い、収納率の向上と早期回収に努められたい。

経営分析の指標においては、自己資本構成比率は一定の基準を満たし、純利益が生じていることから総収支比率、経常収支比率は基準以上とはなっているが、その他の指標については、一定の水準を満たしていない状況下であり、併せて他会計補助金への依存率が高いことから、次年度以降、財源確保と経費の節減を図り、分析指標の向上に向けた取組を期待する。

下水道施設整備においては、一定の整備が完了し、今後の事業経営においては、適正な施設等の修繕や維持管理による長寿命化に向け、経営の効率化や健全化と併せて計画的な施設等の更新を図ることが求められているところである。

下水道事業は、生活環境の改善や河川等公共用水域の水質保全を図るとともに、持続可能な循環型社会の実現に向けて重要な役割を担っている。経営を取り巻く環境は厳しい状況が続いているが、公営企業の基本原則である公共性、経済性を鑑み、着実な事業推進を図ることを期待するものである。また、コスト意識をもって健全な経営に努め、より一層経営基盤を安定させるとともに、水洗化の普及や有収率の向上を図り、市民の生活環境の向上に寄与されるよう望むものである。

## 決 算 審 查 資 料

附表 1 下水道事業損益計算書比較表

附表 2 下水道事業貸借対照表比較表

付表 1

## 下水道事業損益計算書比較表

(単位：円・%)

項 目		年 度	令和5年度		令和4年度	対前年度比較	
			金 額	構成比	金 額	増 減	増減率
収 益 の 部	営業 収益	下水道使用料	98,801,720	8.6	—	—	—
		雨水処理負担金	96,517,000	8.4	—	—	—
		その他の営業収益	460,000	0.0	—	—	—
	営業外 収益	受取利息及び配当金	4,316	0.0	—	—	—
		他会計補助金	513,447,000	44.5	—	—	—
		長期前受金戻入	444,501,262	38.5	—	—	—
		雑 収 益	6,809	0.0	—	—	—
	計 (A)		1,153,738,107	100.0	—	—	—
費 用 の 部	営業 費用	管 渠 費	10,258,855	1.5	—	—	—
		ポンプ場費	4,972,445	0.7	—	—	—
		処理場費	73,706,515	10.0	—	—	—
		総 係 費	39,017,523	5.3	—	—	—
	減価償却費	544,987,839	73.6	—	—	—	
	営業外 費用	支払利息及び企業債取扱諸費	55,116,008	7.5	—	—	—
		消費税及び地方消費税	0	0.0	—	—	—
		雑 支 出	8,527,201	1.1	—	—	—
	特別 損失	固定資産売却損	0	0.0	—	—	—
		減 損 損 失	0	0.0	—	—	—
		過年度損益修正損	3,729	0.0	—	—	—
その他特別損失		2,147,062	0.3	—	—	—	
計 (B)		738,737,177	100.0	—	—	—	
純利益(A)－(B)		415,000,930		—	—	—	

## 下水道事業貸借対照表比較表

(単位：円・%)

項 目	年 度	令和5年度		年度当初	対年度当初比較	
		金 額	構成比	金 額	増 減	増減率
資 産 の 部	1 固定資産	16,983,608,998	97.8	17,523,845,837	△ 540,236,839	△ 3.1
	(1) 有形固定資産	16,864,266,633	97.1	17,400,902,179	△ 536,635,546	△ 3.1
	イ 土地	303,713,400	1.7	303,713,400	0	0.0
	ロ 建物	930,950,449	5.4	973,555,632	△ 42,605,183	△ 4.4
	ハ 構築物	14,594,989,887	84.0	14,967,702,640	△ 372,712,753	△ 2.5
	ニ 機械及び装置	1,034,366,183	6.0	1,155,673,141	△ 121,306,958	△ 10.5
	ホ 工具器具及び備品	246,714	0.0	257,366	△ 10,652	△ 4.1
	ヘ 建設仮勘定	0	0.0	0	0	-
	(2) 無形固定資産	119,342,365	0.7	122,943,658	△ 3,601,293	△ 2.9
	イ その他無形固定資産	119,342,365	0.7	122,943,658	△ 3,601,293	△ 2.9
	2 流動資産	385,642,076	2.2	84,189,481	301,452,595	358.1
	(1) 現金預金	334,623,696	1.9	72,973,112	261,650,584	358.6
	(2) 未収金	51,028,380	0.3	11,216,369	39,812,011	354.9
	貸倒引当金	△ 10,000	-	0	△ 10,000	皆増
資産合計	17,369,251,074	100.0	17,608,035,318	△ 238,784,244	△ 1.4	
負 債 の 部	3 固定負債	2,350,366,166	13.5	2,724,565,032	△ 374,198,866	△ 13.7
	(1) 企業債	2,350,366,166	13.5	2,724,565,032	△ 374,198,866	△ 13.7
	4 流動負債	502,798,118	2.9	435,687,395	67,110,723	15.4
	(1) 企業債	377,098,866	2.2	400,983,912	△ 23,885,046	△ 6.0
	(2) 未払金	118,187,252	0.7	34,703,483	83,483,769	240.6
	(3) 引当金	2,122,000	0.0	0	2,122,000	皆増
	(4) その他流動負債	5,390,000	0.0	0	5,390,000	皆増
	5 繰延収益	13,590,257,327	78.2	14,000,340,739	△ 410,083,412	△ 2.9
	(1) 長期前受金	14,034,758,589	80.8	14,000,340,739	34,417,850	0.2
	(2) 収益化累計額	△ 444,501,262	-	0	△ 444,501,262	皆増
負債合計	16,443,421,611	94.7	17,160,593,166	△ 717,171,555	△ 4.2	
資 本 の 部	6 資本金	345,776,673	2.0	345,776,673	0	0.0
	7 剰余金	580,052,790	3.3	101,665,479	478,387,311	470.6
	(1) 資本剰余金	165,051,860	1.0	101,665,479	63,386,381	62.3
	イ 国庫補助金	72,474,269	0.4	72,474,269	0	0.0
	ロ 県補助金	16,380,779	0.1	16,380,779	0	0.0
	ハ 受益者負担金及び分担金	63,386,381	0.4	0	63,386,381	皆増
	ニ 他会計補助金	12,810,431	0.1	12,810,431	0	0.0
	(2) 利益剰余金	415,000,930	2.4	0	415,000,930	皆増
イ 当年度未処分利益剰余金	415,000,930	2.4	0	415,000,930	皆増	
資本合計	925,829,463	5.3	447,442,152	478,387,311	106.9	
負債・資本合計	17,369,251,074	100.0	17,608,035,318	△ 238,784,244	△ 1.4	